

風流印字

●発行 (株)和歌山印刷所
 ■本社
 〒640-8412 和歌山市狐島609-9
 TEL.073-451-4111 FAX.073-452-2631
 ■東京営業所
 〒100-004 東京都千代田区大手町 2-6-2 日本ビル 3階
 TEL.03-6658-8440 FAX.03-6658-8441
 ●発行年月日 2020年10月1日

朝晩が急に涼しくなってきたので、体調管理に注意して下さい！
 こんにちは！和歌山印刷所、通称「わいん」です。
 9月上旬に東京で開催された「販促EXPO」に弊社がブースを出展しました。
 今月号は「販促EXPO」についての特集です。

■販促EXPO出展

9月2日(水)～4日(金)の間、東京ビッグサイトで「JapanマーケティングWeek夏」内の「第12回販促EXPO」へ出展してきました。商材は「FROMワン」をはじめとする「1冊から作れる手書き伝票類」です。今回はコロナウイルス対策関連の商材を展示しているブースが多く、わいんのブースは異彩を放っていたかもしれません(笑) そんななか、果たしてどれだけの方が来てくださるか予想がつかみませんでしたが、結果的には多くの方にブースへ立ち寄っていただくことができました。

■訪れてくれた方々

同業の印刷・デザイン会社をはじめ、クリーニング、学習塾、印判、警備、不動産関連等、様々な業種の方がお話を聞いてくださいました。ペーパーレス化が進むなかで、手書き伝票の需要が低下しているのは事実ですが、まだまだ使われているところが数多くあることを実感いたしました。

■手書き伝票に需要アリ

最近には特に、印刷会社の廃業や機械の老朽化によって、手書き伝票を作れるところが少なくなっています。複雑な仕様も多いので、慣れないと発注もひと苦勞、なんて話もよく聞きます。去年から東京営業所を開設したこともあり、「直接会って相談しやすいのありがたい」というお言葉もいただきました。

■ご来場ありがとうございました

今回の展示会は、主催者側も来場者数を読めなかったと思います。なかには出展を取りやめたところもありました。それでも弊社のブースを訪れてくださった方々には、本当に感謝してもしきれません。今回のご縁を、お客様のご満足につなげられるよう、誠心誠意尽力してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



風流印字 (ふうりゅういんじ) …「風流韻事」の造語。興味深い記事を載せた印刷物の意。

総務3人娘がお届けする

わいわいインタビュー



私たち総務3人娘が、社員の経験談を毎月レポートします。今月のゲストは、製品部の矢田佳準さんです！

■仕事で得た達成感は何ですか？

製本の仕事をしているのですが、サイズが大きい・小さい、ページ数が多い・少ないと多種多様な仕事があります。前回苦勞した仕事の再注文がきた時、前回よりスムーズに作業が出来た時に喜びを感じます。

■苦勞したエピソードはありますか？

入社当時の上司が職人気質で「見て学べ」という考え方でした。しかし、なかなか覚えることができず、厳しく指導してもらったことを覚えています。当時はとてもつらかったのですが、今となってはいい思い出です。

■つらかったことを乗り越えた工夫って？

入社したての頃は毎日叱られました。毎朝、仕事に行くとき「今日も叱られるのかな」と思いながら出勤していました。しかし、一步一步確実に進むのが最大の近道と考え毎日作業することで、乗り越えました。



製品部
矢田 佳準さん
(入社25年目)

製本のことは矢田さんに聞けば間違いないと思っています。職人の先輩から受け継がれている技術なんですね。



印刷業界の難解「あるある」を紹介！

あるある印刷では、難解な事件(トラブル)が発生している。今日もまた、天然系工場長のもとに新たな相談が持ち込まれるのであった…。

あるある印刷の事件簿



事件ファイル8 「誤植」

印刷オペレータ：「工場長、大変です！パンフレットを印刷していたら文字の間違いに気がきました！」
工場長：「すぐにそのパンフレットを持ってこい！」
 印刷オペレータがそそくさと持ってきた。
工場長：「確かに『支給』であるべきところが『四球』になっているな。これは誤植だ。」
印刷オペレータ：「誤植とはどういうことですか？」
工場長：「印刷において文字や数字が間違っていることだ。営業担当に確認する。印刷は止めておけ！」
印刷オペレータ：「はい！」
工場長：「連絡がとれた。修正が必要だ。制作部に連絡して『死球』訂正してもらえ！」
印刷オペレータ：「工場長、それも誤植です。『死球』ではなく『至急』ですね。」
工場長：「がはははっ！君はよく気が付くんだな！今から修正して下版、印刷を徹夜ですればなんとか間に合うから、みんなで頑張りよう！」
印刷オペレータ：「とほほ・・・(涙)」

こんなトラブル

わいんの対策はこれ！

誤植とは印刷物において文字や数字、記号などが**校正で修正されるべきところをそのまま印刷されてしまうこと**をいいます。誤植の「植」という字は、活字を版に組み込むという意味があります。この版を作るときに、間違えた文字を組み込んでしまうことから誤植という言葉ができました。日常生活での文字等の間違いは誤字と表現するため、誤植は印刷業界の専門用語です。新しい印刷物にシールが貼ってあったり正誤表が挟まれている場合のほとんどは誤植があった時の対応です。わいんでは制作オペレータ・営業マンのチェックだけでなく、**校正を行う専門の部門**があります。ここでは修正内容の確認だけでなく、**漢字のチェック・曜日や日付の確認・日本語としての表現が適切かどうかを確認し、万全の体制で印刷ができる環境を整えています。**



▲校正紙に校正記号を記入した様子

走れ、営業マン！！



「早朝ウォーキング」

栗須明秀(営業部部长:62歳)です！

高血圧の改善を目標に、早朝ウォーキングを始めました。若い頃より早起きでしたが、年のせいか最近では日の出前に目が覚めます。明るくなると、家の周りを約一時間歩いておりますが、歩くコースにお地蔵様が2体祀られております。ある日、お婆さんが手を合わせてるのを見てから、私も真似て毎朝「今日一日無事で過ごせますように、良い一日でありますように」と自分に言い聞かせるようにお地蔵様に手を合わせております。良い汗と共に良い一日のスタートです。



「釣り解禁！」

辻本英雄(営業部係長:51歳)です！

今回も釣りネタですみません。コロナ禍で趣味の釣りを自粛していましたが、我慢ならず日本海の京丹後へ鱈ジギングに行ってきました。鱈というたらこ・白子で冬のイメージですが、夏の方が身は美味しいとの事で決定しました。当日は残暑が厳しく、さらに無風で水分をとっても、まだ飲みたくなる状況で船からあがるとバテバテで4ℓも飲んでいました。釣果は鱈のほかにタヌキメバル・ムシガレイ等、和歌山では見かけない魚が釣れ楽しめましたが大きいのが釣れなかったのが残念です。次回は串本でカンパチを狙います。



和歌山印刷所ニュースレター・アンケートのコーナー

今回の記事で印象に残った記事などがありましたら下記のチェックボックスにチェックを入れ、感想をご記入の上でFAXを送っていただくとクオカード(500円分)を抽選でプレゼントいたします。(FAX/073-452-2631)

特集「販促EXPO」 わいわいインタビュー あるある印刷の事件簿 走れ、営業マン!!

ご意見・ご感想等(御社名/ 氏名/)

編集後記

今までカボチャ=“pumpkin”だと思っていたのですが、実は“pumpkin”というのはハロウィンで見られるような皮がオレンジ色のもののみを指し、皮が緑色のものは“squash”と総称されるそうです。さて、9月19日からイベントの開催制限が緩和されました。ハロウィンはまだ難しいでしょうが、スポーツ観戦やコンサート等は規制前に近い形で行われるようになっていくのでしょうか。印刷という仕事は、経済が回ってこそ真価を発揮するという側面はありますが、固定観念にとらわれず、お客様への寄り添い方を模索し続けたいと思います。

(編集長：椿原健太)